

備前市施策評価シート

(平成19年度事業)

施策名 (小項目)	精神保健	コード	作成者	役職	保健課長
		02-02-03	氏名	岩崎 透	
			電話	64-1819	

備前市総合計画の内容から記載する

政策の体系	大項目(基本目標)	健康でやさしさあふれるまちづくり
	中項目(基本施策)	健やかで生き生きしたまちづくり
① 施策の対象と目的 (誰のために、何のために)	精神障害者が適正な治療を継続し地域で暮らせるとともに、社会との交流を促進する。	
② 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	社会環境や人間関係の変化・複雑化により、心の健康が損なわれ易い状況にある。こうした状況の中で精神障害者の人権に配慮し、自立にむけての支援や社会との交流促進を図るため、施策を推進していく。	
③ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 知識の普及啓発 相談窓口の充実 社会復帰の促進 	

④ 市民意識調査による施策の重要度・満足度

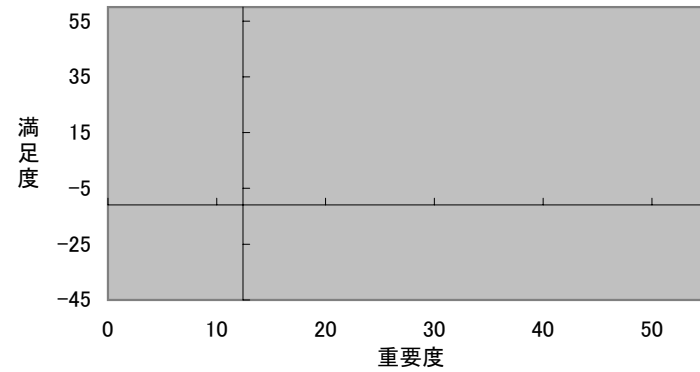
調査年度	H19	H20	H21
重要度(%)			
満足度(%)			

<見直し領域>
その施策や事業が必要か否かの検討が必要

<維持領域>
現状の方向を継続

<検討領域>
その施策や事業の存続の検討が必要

<強化領域>
内容等を見直し、市民満足度を高める事業を行う



調査結果に対するコメント、市民の反応等	障害者自立支援法の施行に伴い、共同作業所の運営も大きく様変わりしている。こうした中、精神障害者の保護者会も施策の拡充を強く要望している。
---------------------	--

⑤ 施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績			目標値			ベンチマーク	指標の説明
		H17	H18	H19	H20	H23	H28		
1 通院医療費支給率	目標 %	88.0	93.0	93.0	100.0	100.0	100.0	精神疾病患者通院医療費需給延べ人数/対象延べ人数	
	実績 %	85.7	89.5	99.8					
	達成率 %	97.4	96.2	107.3					
2 作業所利用率	目標 %	80.0	80.0					作業所通所者数/作業所定員(自立支援法によりH18・10から作業所が民営化)	
	実績 %	78.6	71.4						
	達成率 %	98.3	89.3						
3 地域交流サロンとまり木参加率	目標 %	40.0	50.0	55.0	55.0	60.0	60.0	延べ参加人数/(事業実施回数×登録人数)	
	実績 %	41.5	50.7	47.3					
	達成率 %	103.8	101.4	86.0					
4	目標								
	実績								
	達成率 %								

⑥ 施策構成事務事業の評価

施策を構成する事務事業	事務事業評価結果 A~E (高~低)	細事業	事業分類	事業費等(単位:千円,人)									H20当初予算			
				H17			H18			H19						
				直接事業費	人件費	人工数	直接事業費	人件費	人工数	直接事業費	人件費	人工数				
1	精神疾病患者通院医療費給付事業	C	精神疾病患者通院医療費給付事業	単市補助給付	1,769	3,091	0.51	3,078	1,305	0.25	2,900	1,266	0.23	☆☆☆☆	\$\$\$	
2	共同作業所助成事業	B	共同作業所助成事業	単市補助給付	5,603	1,510	0.20	2,951	3,055	0.55	300	2,979	0.42	☆☆	\$\$	4,569
			地域交流サロン運営事業	その他単市	405	1,163	0.13	378	1,395	0.15	885	2,492	0.39			
この施策に費やした資源(単位:千円,人)					H17			H18			H19			H20当初(直接事業費)		
					7,777	5,764	0.84	6,407	5,755	0.95	4,085	6,737	1.04	4,569		

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
保健課保険医療係	心の健康相談	精神科医師による精神科相談

⑧ 施策の評価

項目	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い			
	一次評価		二次評価	
	評価	判断理由	評価	判断理由
1 目的達成度(中・長期目標に対する)	4	通院医療費助成について90%の支給率で、経済的支援により継続的治療を実施している。	3	通院医療費助成の達成度は高い。目標値が達成できる見込みである。
2 事業構成の適当性	4	継続的治療環境と社会復帰の機会提供の両面から精神障害者支援を実施している。	3	精神保健の主要な事業であり妥当である。
3 施策の有効性(評価年度の目標達成)	4	精神障害者のいる国保世帯では低所得の世帯が多く、この支援により継続治療を受診できている。	4	障害者への自立支援の有効な施策である。
担当への指示(今後の展開・協働の可能性・事業見直し・新規事業創出等)	精神障害者が地域で生活するためには、地域の理解とNPOや保健師等のマンパワーによる見守り、地域社会への参画機会の提供、治療通院継続の助成が必要である。地域交流サロンの参加者増を図る必要がある。			
二次評価者コメント	精神障害者が施設等で閉じこもることなく、地域で共に生活が営むことができるよう、周りの人達の理解と積極的支援が必要である。各地域でのコミュニケーションづくりが求められている。			基本施策への貢献度
役職 民生部長 氏名 鷗川 晃匠				3中立